

# ニッフェアール第19回公演

リゲタイへのオマージュ  
究極のDuo:トランペットとチェロ

Kiyonori Sokabe, Trumpet 曾我部 清典 (トランペット)



Homage to György Ligeti (1923-2006)



Yuki Nomura, Cello 野村友紀 (チェロ)

2023 **11.24** FR.

18:45 [開演]・18:15 [開場]

愛知県芸術劇場 中リハーサル室

地下鉄「栄」駅下車 徒歩5分  
愛知芸術文化センター 地下2階

■ チケット (消費税込・全席自由) ■

一般 ¥3,000 学生 ¥2,000 (当日各500円増)

\*学生料金は25歳以下対象 (要証明書)

未就学児のご入場は、お断りする場合がございます。

■ チケットのお取り扱い ■

ニッフェアール nymphheart@yahoo.co.jp, 090-5621-3697 (予約受付中)

一般発売 (2023.9.15~)

愛知芸術文化センター地下2階プレイガイド 052-972-0430 (月曜定休)

愛知県芸術劇場オンラインチケットサービス

<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/event/>



■ 主催・お問い合わせ ニッフェアール 090-5621-3697

愛知県芸術劇場 052-211-7552 (10:00~18:00)

■ 助成 公益財団法人野村財団

■ 後援 日仏現代音楽協会

■ サントリー芸術財団 佐治敬三賞 推薦コンサート

## プログラム

リゲティ 《無伴奏チェロソナタ》  
《マカーブルの秘密》 (トランペットとチェロ版)  
オペラ「ル・グラン・マカーブル」より

伊藤 美由紀 《見えないものとの対話》 世界初演  
(トランペットとチェロ)

後藤 成美 《新曲》 世界初演 (チェロ)

たかの 舞俐 《遠くから》 世界初演  
(トランペットとチェロ)

吉川 聖 《Small Fish》 (トランペット・電子音響・映像)

水野 みか子 《エクテラ、空》 世界初演 (トランペット)

名古屋市市民芸術祭 2023参加

NOMURA 野村財団

日仏現代音楽協会  
Association  
de la musique contemporaine  
Franco-Japonaise



# ジェルジ・リゲティ (1923-2006)

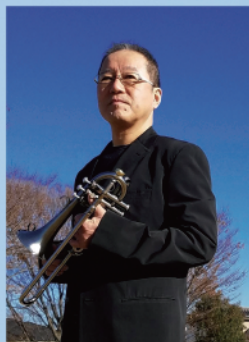
生誕100年を記念して、ニンフェール第19回公演では、現代音楽のスペシャリストとして活躍するトランペットの曾我部清典と、愛知県を拠点に活躍中のチェリスト、野村友紀をお迎えします。

リゲティの作品、リゲティの弟子で国際的に活躍するための舞例、古川聖の作品、愛知県在住の3名の作曲家：伊藤美由紀、後藤成美、水野みか子によるリゲティへのオマージュ作品を含んだリゲティに関連する作品をお届けします。トランペットとチェロというユニークな楽器編成で個性的で魅力的な作品に挑戦します。ニンフェール公演では始めて取り上げる金管楽器。生演奏でしか体験できない繊細な音響を是非とも会場でお楽しみ下さい！

## ◆ニンフェールについて

2005年愛知県で開催された国際芸術音楽祭に参加を機に作曲家の伊藤美由紀により結成されたプロジェクト。愛知県にゆかりのある作曲家、演奏家を国内外から招聘し、テクノロジーを利用したり、映像作家とのコラボレーション、文学をテーマとしたコンサートなど個性的なアイデアで精力的に企画を行う。2014年第10回公演『東洋と西洋の絃』にて、チャレンジ精神に満ちた企画で且つ公演成果の水準の高い優れた公演に贈られる第14回佐治敬三賞を受賞。

## ～ 出演者・新作出品作曲家 Profile ～



### 曾我部清典 (トランペット)

1952年愛媛県生まれ。東京藝術大学音楽学部器楽科卒。卒業後、上野の森プラスに加入、コンサートマスターを務め、現在に至る。一方、学生時代より、作曲家近藤譲率いる現代音楽アンサンブル『ムジカブラクティカ』に参加、国内外の新作初演に数多く携わる。現在も、現代音楽のスペシャリストとして、多くの作曲家から作品を贈られている。ALMレーベルより4枚のソロCDをリリース。特に共演者が一人も居ない『透明な孤独』は、レコード芸術・音楽芸術などで特選盤の評価を受けた。2001年より度々ヨーロッパ主要都市(パリ・ロンドン・ベルリン・ハンブルク・ローマ・カイロ・テルアヴィヴなど)でソロリサイタルを行う。近年はデュオ・トリオに傾倒しており、山田岳(ギター) 曾田瑞樹(ヴィブラフォン/マリンバ) 塚谷水無子(オルガン) 大田智美(アコーディオン)とのデュオリサイタル進行中。トリオには、双子座三重奏団(トランペット・バリトン・ピアノ)・トリオゼフェロス(トランペット・ソプラノ・オルガン)・プラストリオグループ(金管三重奏団)・トランペッタートリオウエボン(トランペット三重奏団)がある。全音楽譜出版社よりアーバン金管教則本全3巻を編著、『トランペット未来塾』と名付けた合宿形式の講習会を日本全国で開催するなど、教育活動にも積極的に取り組んでいる。また、野口体操同好会『のの会』を主宰、藝大時代の恩師野口三千三氏の身体感覚に基づいた演奏法を実践するとともに、教育活動にも取り入れている。他に、プラスエクストリームトウキョウ(金管五重奏団)・コンテンツボラリーα(現代アンサンブル)メンバー。洗足学園音楽大学・茨城大学教育学部非常勤講師歴任、日本トランペット協会常任理事。曾我部ミュージックパブリッシング代表。https://sokabemusic.com/ja



### 野村友紀 (チェロ)

京都市立芸術大学音楽学部を経て2005年渡独、州立カールスルーエ音楽大学に入学。ディプロム取得後、室内楽ソリストコースに進学、最高点にて国家演奏家資格を取得。在学中、学校推薦によりDAAD、ユーディ・メヌーイン財団より奨学金を受ける。第1回名古屋国際音楽コンクール弦楽部門第2位入賞。名古屋しらかわホールにて読売新人演奏会出演、第2回マックス・レーガー国際室内楽コンクール(ドイツ)特別賞受賞。2009年第147回日演連推薦新人演奏会に出演、名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演。在独中は、ドイツ各地でコンサート活動をする他、韓国、日本でも演奏会に出演。また、州立カールスルーエ歌劇場、国立マンハイム歌劇場オーケストラに在籍。2013年に帰国後はソリストとして、また室内楽、オーケストラ奏者として活動。これまでにチェロを吉田順、河野文昭、雨田一考、上村昇、マーティン・オスタータークの各氏に、室内楽を岸達百穂、M・ウーデ、F・ゾルター、J・W・ヤーンの各氏、またフォーレカルテットに師事。現在、愛知県立芸術大学音楽学部、名古屋市立菊里高等学校音楽科及び椙山女学園大学教育学部非常勤講師として後進の指導にあたる。音楽クラコ座、カルテットSAY、カルテットLOQUIメンバー。

### 伊藤美由紀 (作曲)



愛知県立芸術大学、マンハッタン音楽院修士課程修了後、コロンビア大学(ニューヨーク)で作曲をトリストン・ミュライクに師事、博士号を取得。文化庁芸術家在外研修員としてIRCAM(フランス国立音響音楽研究所)にて研鑽を積む。ミュージック・フロム・ジャパン(ニューヨーク)、アタック・シアター(ピッツバーグ)、愛知芸術文化センター、Sinus Ton(ドイツ)、

大矢素子、加藤訓子、等からの作品委嘱ほか、名古屋文化振興賞、日本交楽団振興財団作曲賞入選、フランコ・エヴァンジェリスティ国際コンクール(イタリア)優勝などを含み、カーネギーホール、レゾナンス・フェスティヴァル(パリ)、ISCM(香港、エストニア)、ICMC(マイアミ)、SMC(ギリシャ、スペイン)、Re:New(デンマーク)、Visiones Sonoras(メキシコ)、Foro国際現代音楽祭(メキシコ)、アジア音楽祭など国内外で作品の発表を続けている。また、ニンフェール、JUMP(日米:新しい音楽の展望)の代表として自主企画公演を定期的に展開。ニンフェール第10回公演は第14回佐治敬三賞受賞。『時の砂』がALCD80から、『もうひとつの声』が2020年トーンフォレスト・レコードからリリース。執筆活動として『音楽現代』に特集記事や公演批評を寄稿。2019年カワイサウンド技術音楽振興財団研究助成による研究テーマは『二十五絃の可能性』。今まで名古屋芸術大学、千葉商科大学、愛知県立芸術大学大学院、愛知県立大学、四川音楽学院(中国)などで後進の指導にあっている。

### 後藤成美 (作曲)



1996年岐阜県生まれ、愛知県出身。手工芸品のような質感を際立たせる音の追求と、トレモロに関心がある。パフォーマンスによる表現もときどき行う。音楽グループ『プフィフパフ』を結成し、幅広く新しい音楽を取り上げるコンサートを行う。アートグループ『波線』では、

複合芸術表現分野でインスタレーションや映像を用いた音楽作品を手がける。愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻作曲コース卒業、桑原賞を受賞。同大学大学院音楽研究科博士前期課程作曲領域修了。作曲を山本裕之、小井洋明、Gian Paolo Luppi、Juha T. Koskinen、電子オルガンを稲垣智保、名和由美子の各氏に師事。公益財団法人青山音楽財団平成30年度奨学生。一宮市アウトリーチ事業団体「みちかむじか」参加アーティスト。

### たかの舞例 (作曲)



桐朋学園大学作曲科卒業後、国立フライブルク音楽大学大学院にてブライアン・ファニーホウ教授に、ハンブルク音楽大学大学院でジェルジ・リゲティ教授に作曲を師事、修士修了。日本音楽コンクール、入野賢、シュトゥットガルト州作曲賞など数々の賞を受賞。師リゲティとの出会いにより、独自のオリジナリティを備えた作風を発展させ確立。ハンブルク州文化庁、在日アメリカ大使館、神奈川文化財団などから作品の委嘱を受け、作品は

ミュージック・フロム・ジャパン・フェスティバルなど国内外で演奏されている。文化庁特別派遣研修員としてノースウェスタン大学(アメリカ)に客員作曲家として滞在。2002年にファースト作品集「Women's Paradise」を、2012年1月にセカンド作品集「LigAlien」をスウェーデンのBIS社よりリリース。後者はアメリカCD雑誌「Fanfare」で評論家Peter Burwasser氏により、その年のベスト5に選ばれ、2018年にはBBC Radio3で同CD収録の「Flute concerto」が放送された。2022年にはサード作品集「In a Different Way」を日本のフオンテック社からリリース。今までのリリースヴェルト大学、ニューヨーク大学、ロベルト・シューマン音楽大学デュッセルドルフ、マンハイム音楽大学に招聘され、特別講義を行う。元フェリス女学院大学准教授。現在、桐朋学園芸術短期大学、文教大学講師。

### 水野みか子 (作曲)



作曲家と音楽学との分野で活動。作品は、Bourges電子音響音楽祭、ランスAvantgarde(フランス)、GEDOK(ドイツ)、Venice国際音楽祭、Alba国際音楽祭(イタリア)、Ars Poetica(モルドヴァ)、Musicaacoustica(中国)、衛武宮国立芸術センター開館記念演奏会(台湾)、セントラル愛知交響楽団定演、オーケストラ・プロジェクト2020等で上演されている。ISCM2001/2010、国際コンピュータ音楽会議ICMC2017/2018/2019/2022、

国際音楽新インターフェイス協会NIME2021、ニューヨーク電子音楽祭2019/2022等入選・入賞多数。近作に、管弦楽のための《ミルフォード・ボンド》、《Parva naturalia》、三重奏曲《かぶきじゃないかぶき》(cl/vc/pf)、笙とチェロのための《紺碧水の向こうがわ》、異なる時間帯に存在する2台ピアノのための《Diastema》、8chオーディオ作品《風の譜》などがある。日本電子音楽協会会長、国際コンピュータ協会理事、Meta・Xenakis科学芸術委員、名古屋国立大学教授。